KEISEEDS　　ＲＢＩＯ－２Ｕ

Windows Vista 用コムポートリダイレクタの組み込み

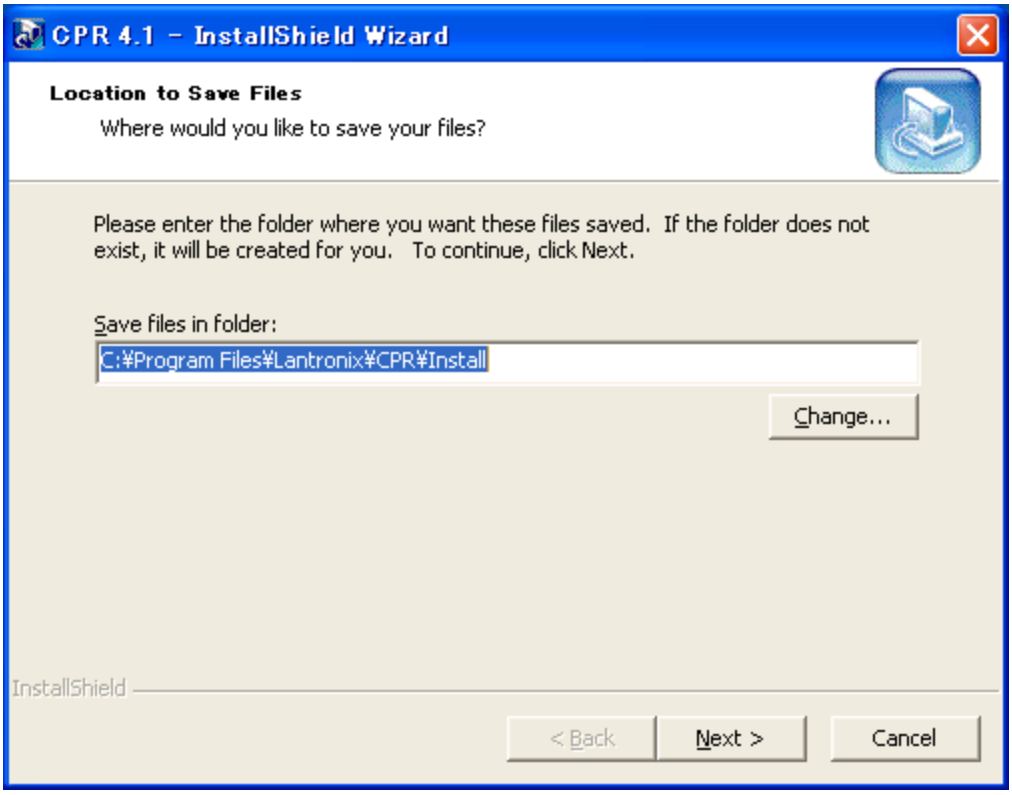
■概要

Windows Vista をご利用の方は次の手順でコムポートリダイレクタ（Com_Port_Redirector：省略名 CPR）の組み込みを行ってください。
なお、Vista 以外の Windows をご利用の方は、RBIO-3E の取説（RBIO-3E.PDF）内で「■ソフトウエアのインストールと設定」項「● Lantonix 社製ソフトとドライバのインストール」を参照してください。
なお、このプログラム（ドライバー）はWindowsXPでも動作します。

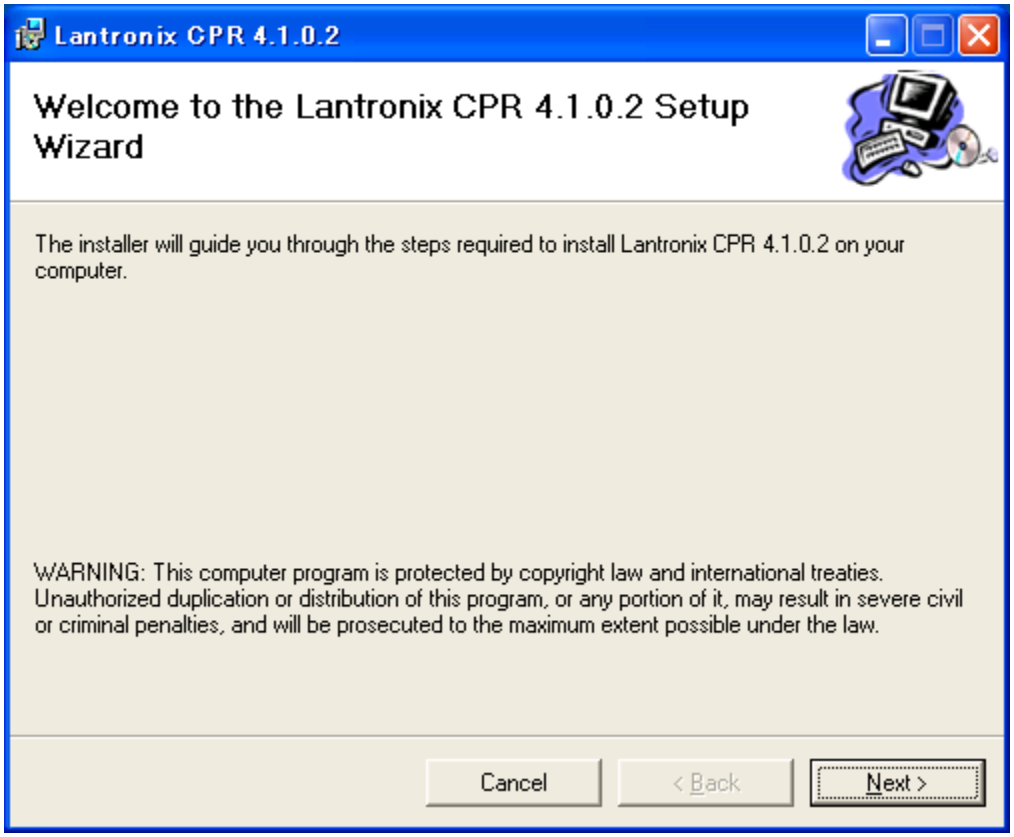
■コムポートリダイレクタの組み込み方法

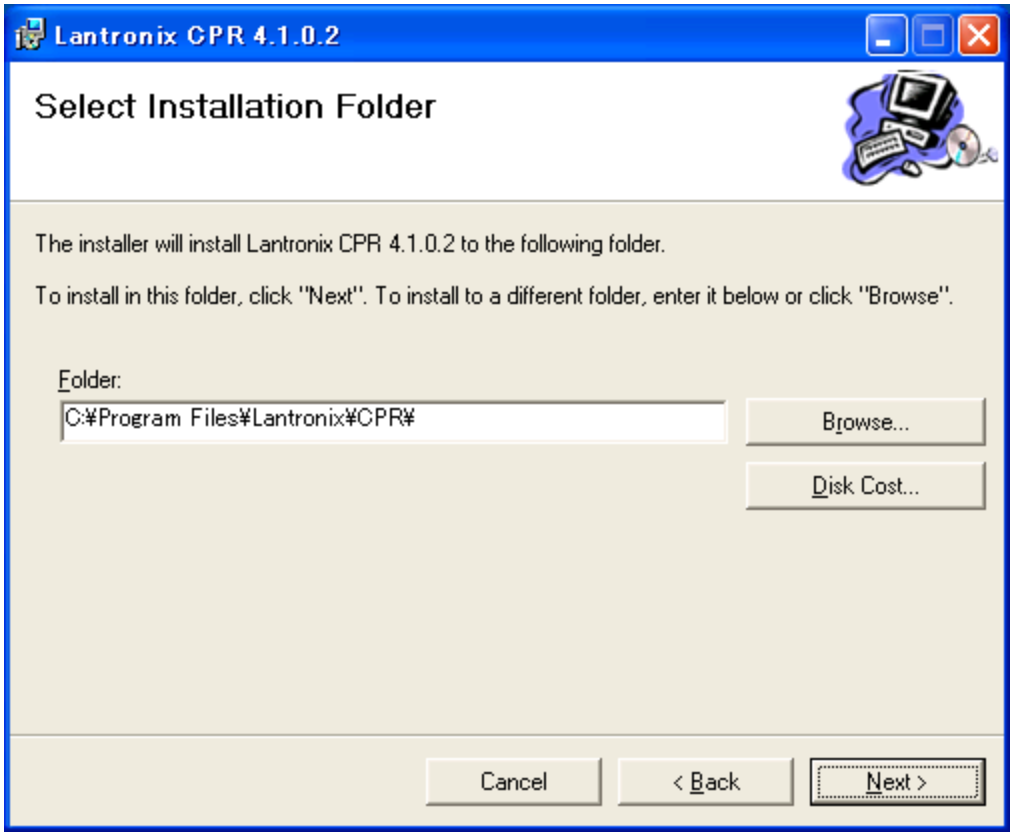
CD 内の CPR フォルダを開いて「CprDotNetDL4.1.0.2_Web.exe」をダブルクリックするとインストールが開始されます。
Vista から実行許可を求めるウインドウが開いた場合は、許可してください。
この説明書の画面写真は通常設定状態の Vista と外観が異なります。

インストール用のファイルを一時的に置くフォルダの指定です。支障が無い場合は「Next」をクリックしてください。

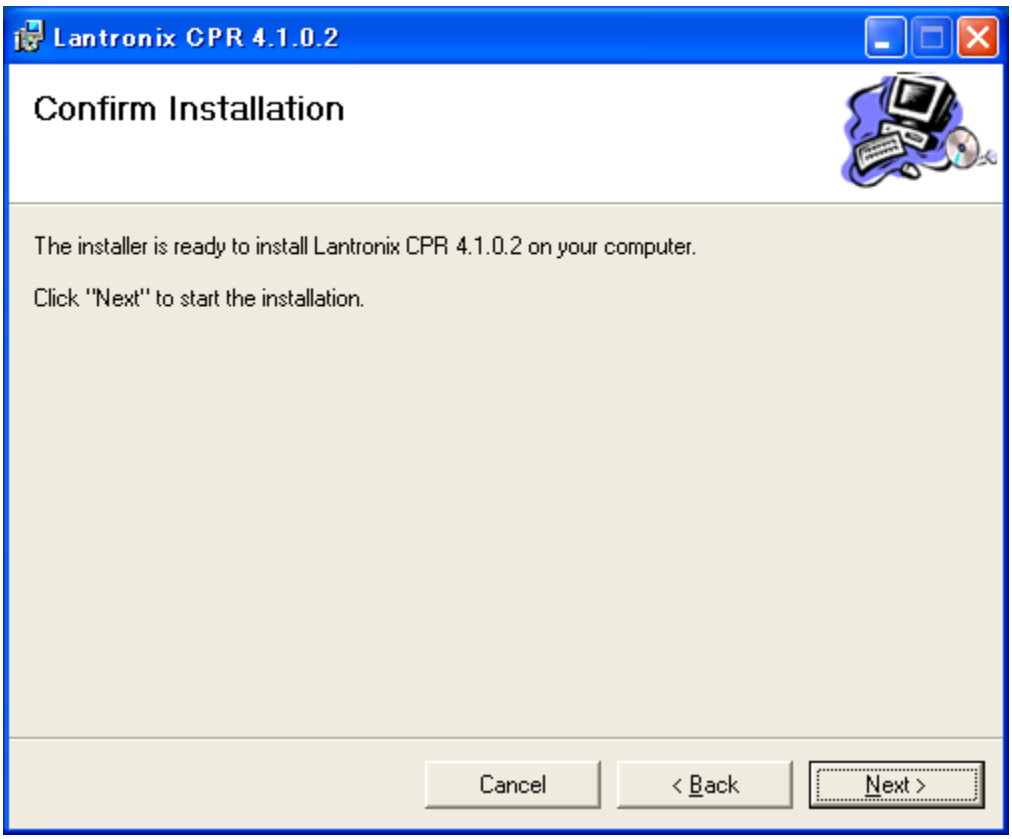


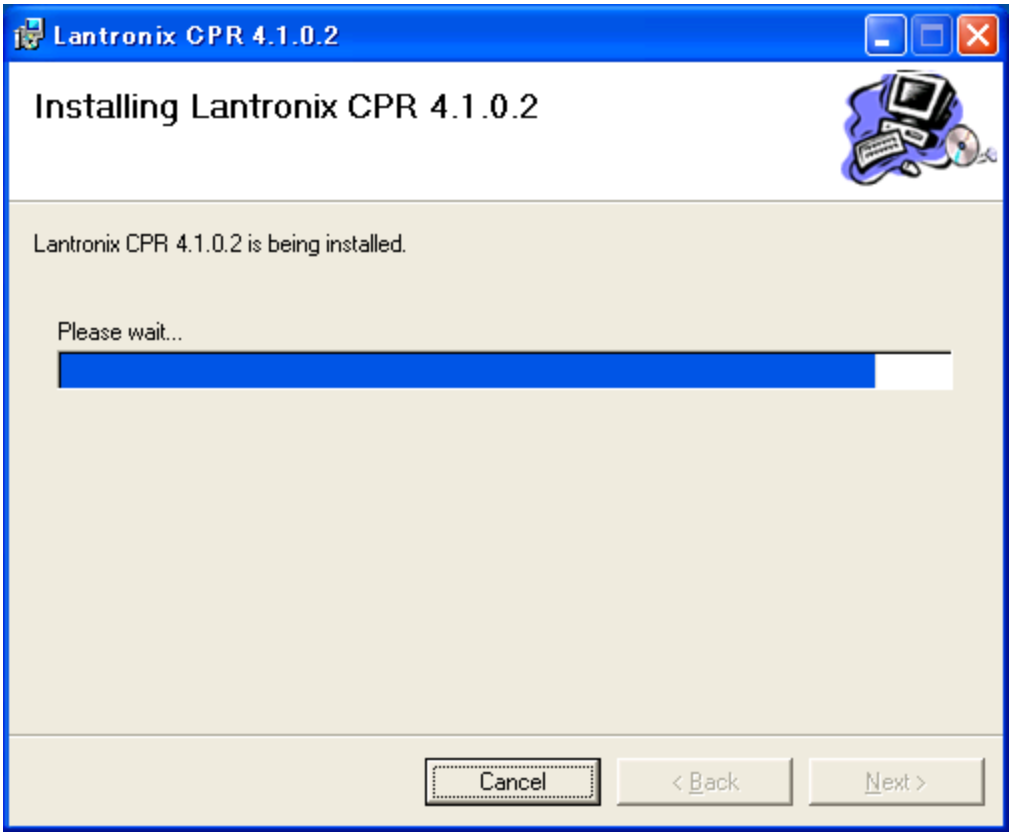
インストールをWindowsXPに行った場合で、「.NET Framework」がインストールされていない場合は、ここで、インストール画面がでます。Windows Vistaには、初期から.NET Frameworkがインストールされているため、コムポートリダイレクタ（CPR）のインストール画面になります。
Nextのクリックでインストール先を指示する画面に進みますので支障が無ければNextをクリックします。



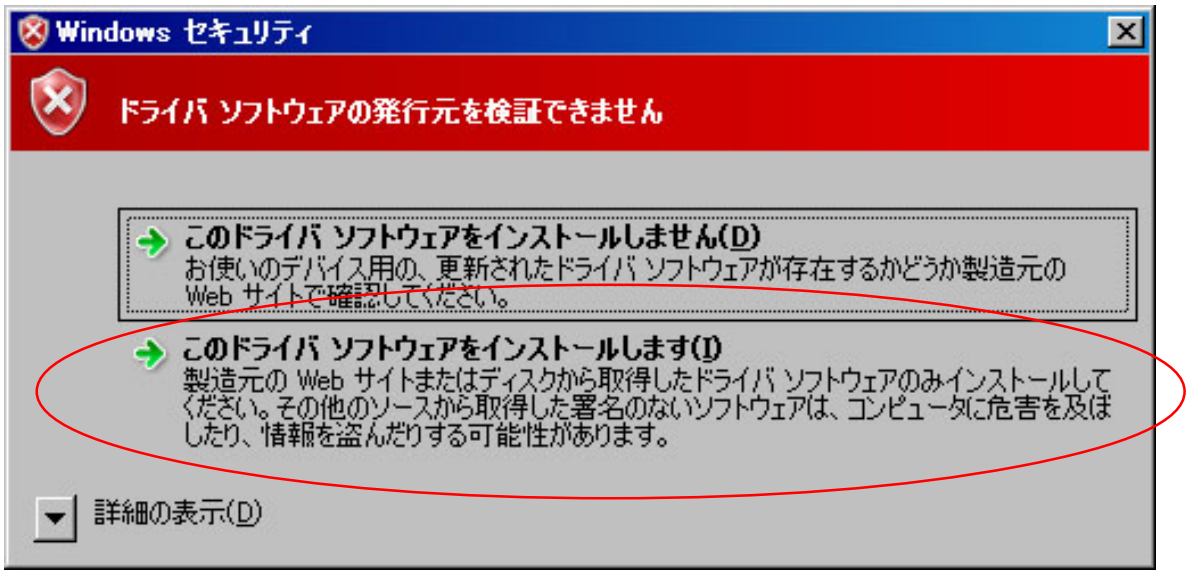


インストールの実行確認画面です。Next をクリックします。
途中、次ページの様な警告メーッセージが出た場合は、「⇒このドライバソフトウエアをインストールします」を選んでください。（次ページの警告画面は Vista の場合です。XP では形式が異なります）

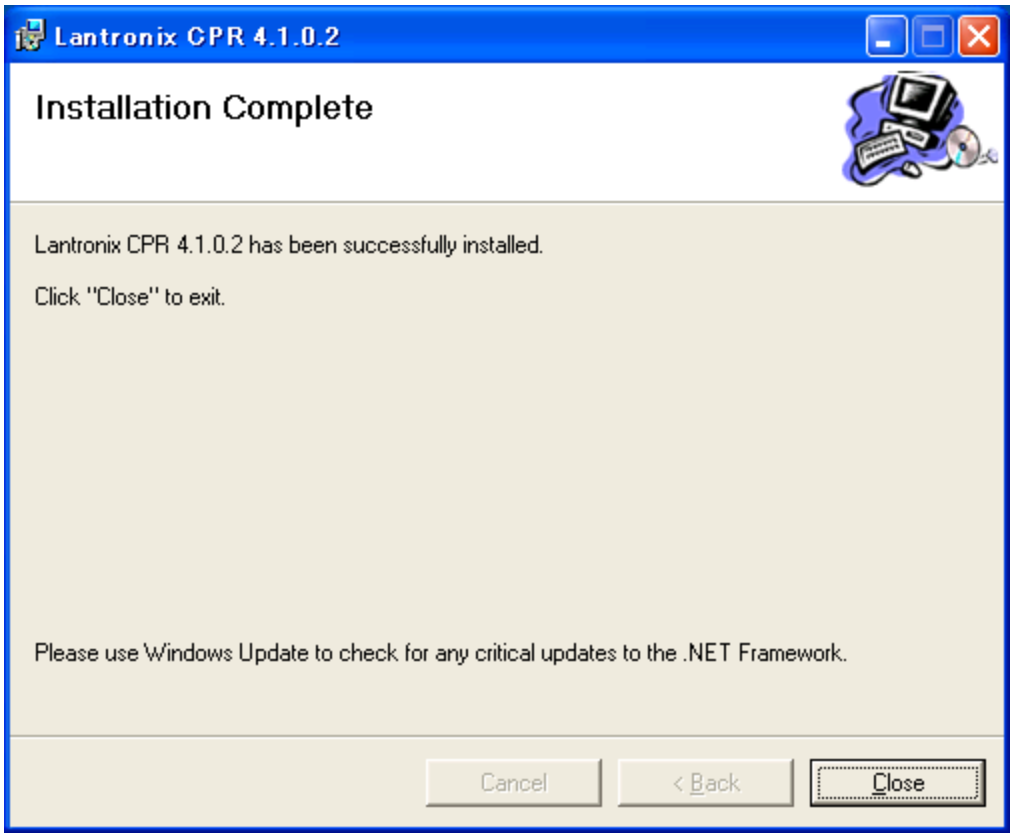




セキュリティー警告画面



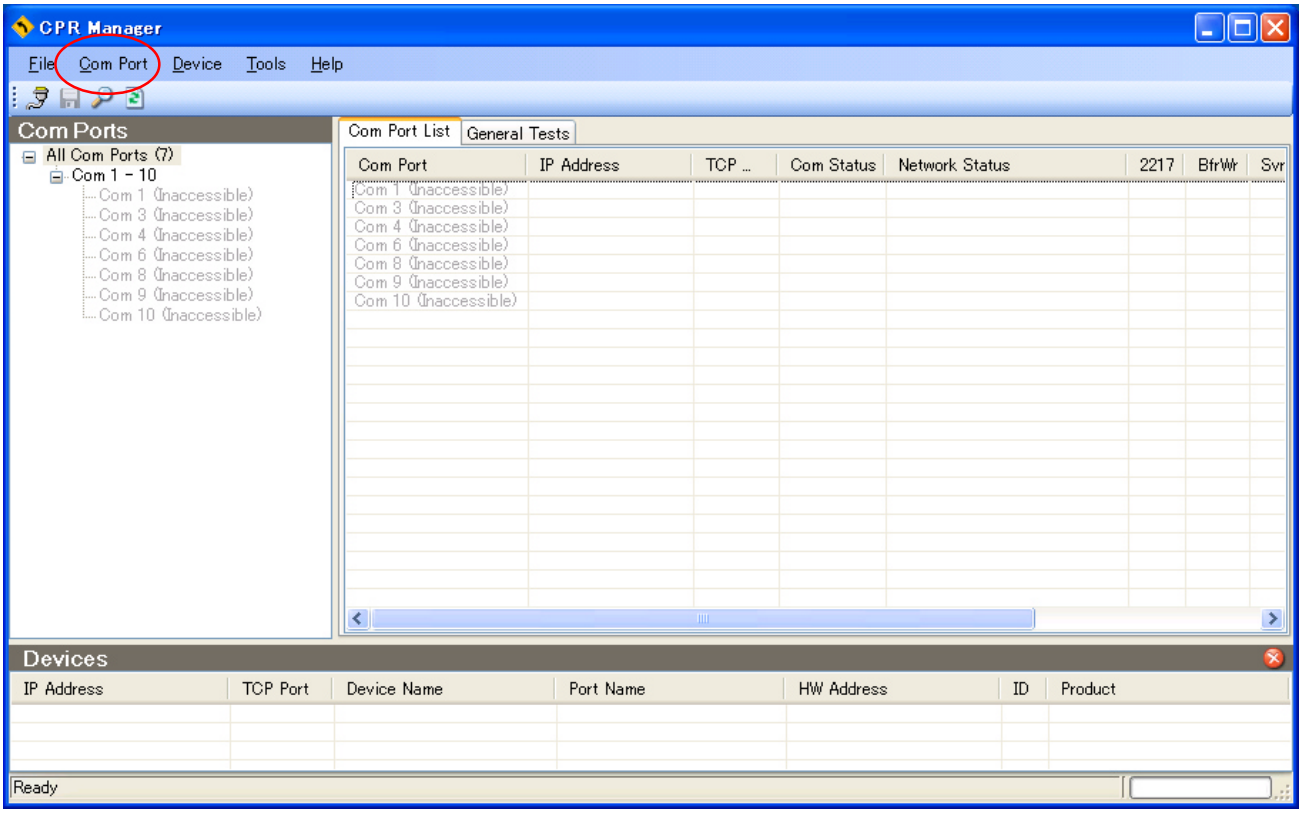
下の表示になれば完了です。close で終了させてください。



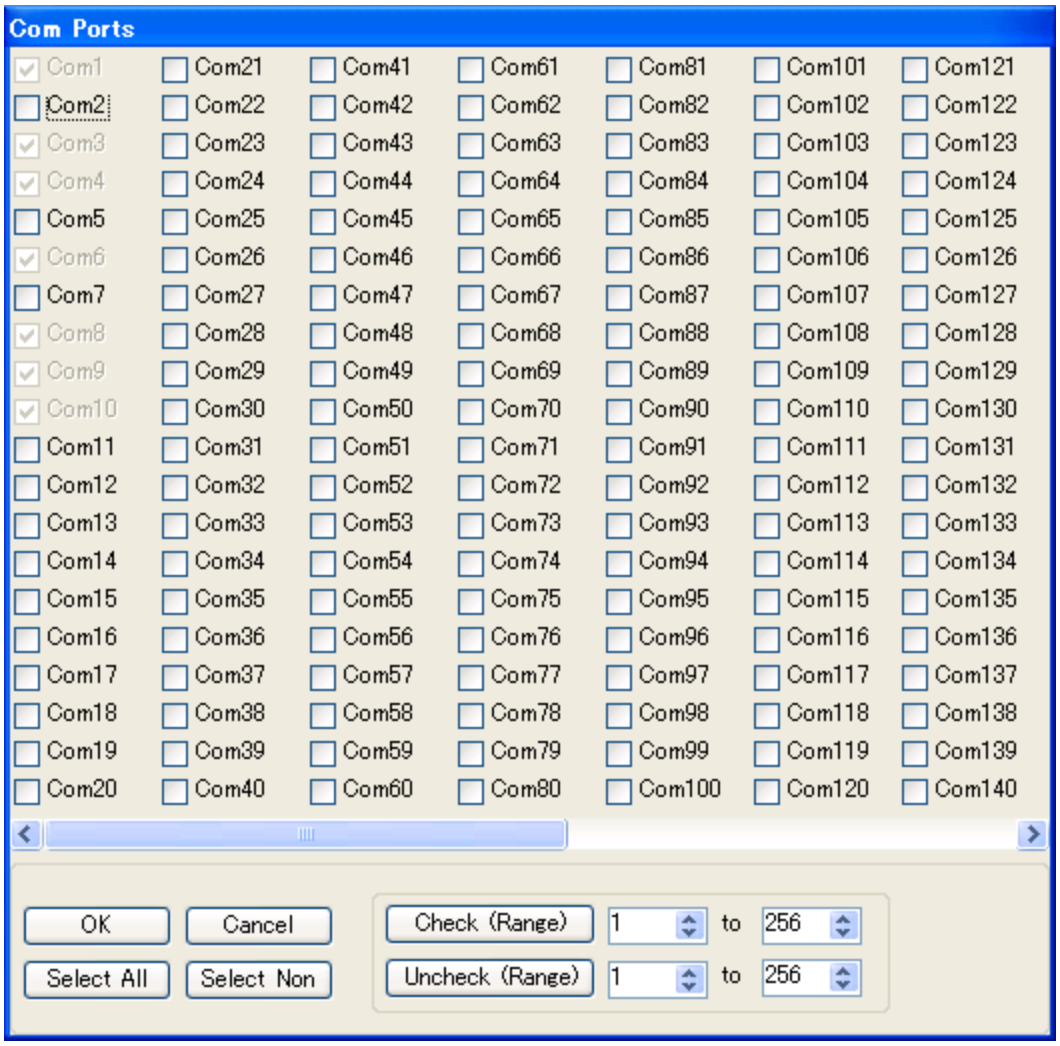
■コムポートリダイレクタ（略称CPR)の設定

コムポートリダイレクタはWindows内に仮想的なCOMポートを作り、そのCOMポートを通してLAN接続されたXport（RBIO-3E)と通信するためのソフト（ダライバーソフト）です。
設定には最低限、次の項目を指定する必要があります。
１、COMポートの番号
２、接続先のXport（RBIO-3E）のIPアドレス。
３、接続先のXport（RBIO-3E）のポート番号。

スタートから、Lantronix⇒CPR4.1⇒CPR Mangerを起動してください。



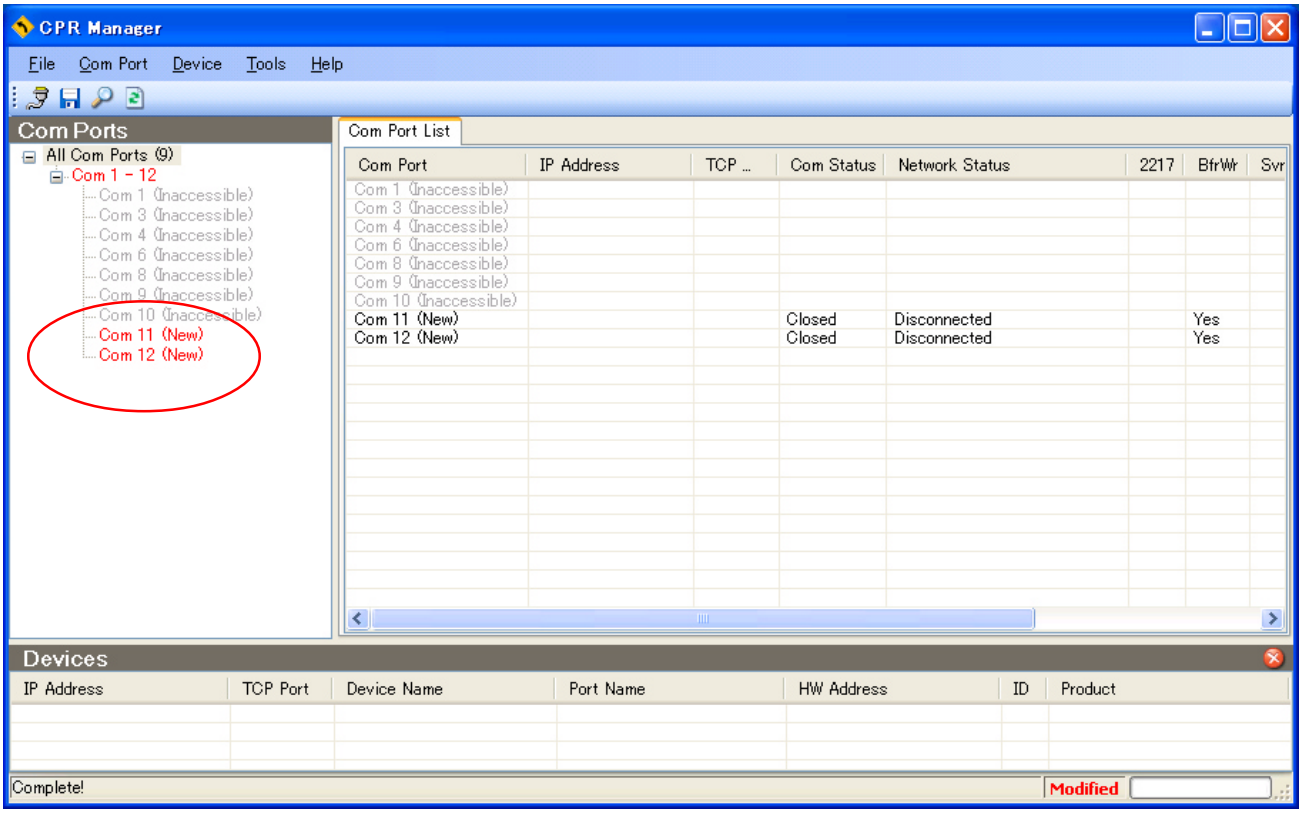
COM Portメニュー内のAdd and Removeを選択してください。
次ページの様な選択ウインドウが開きます。



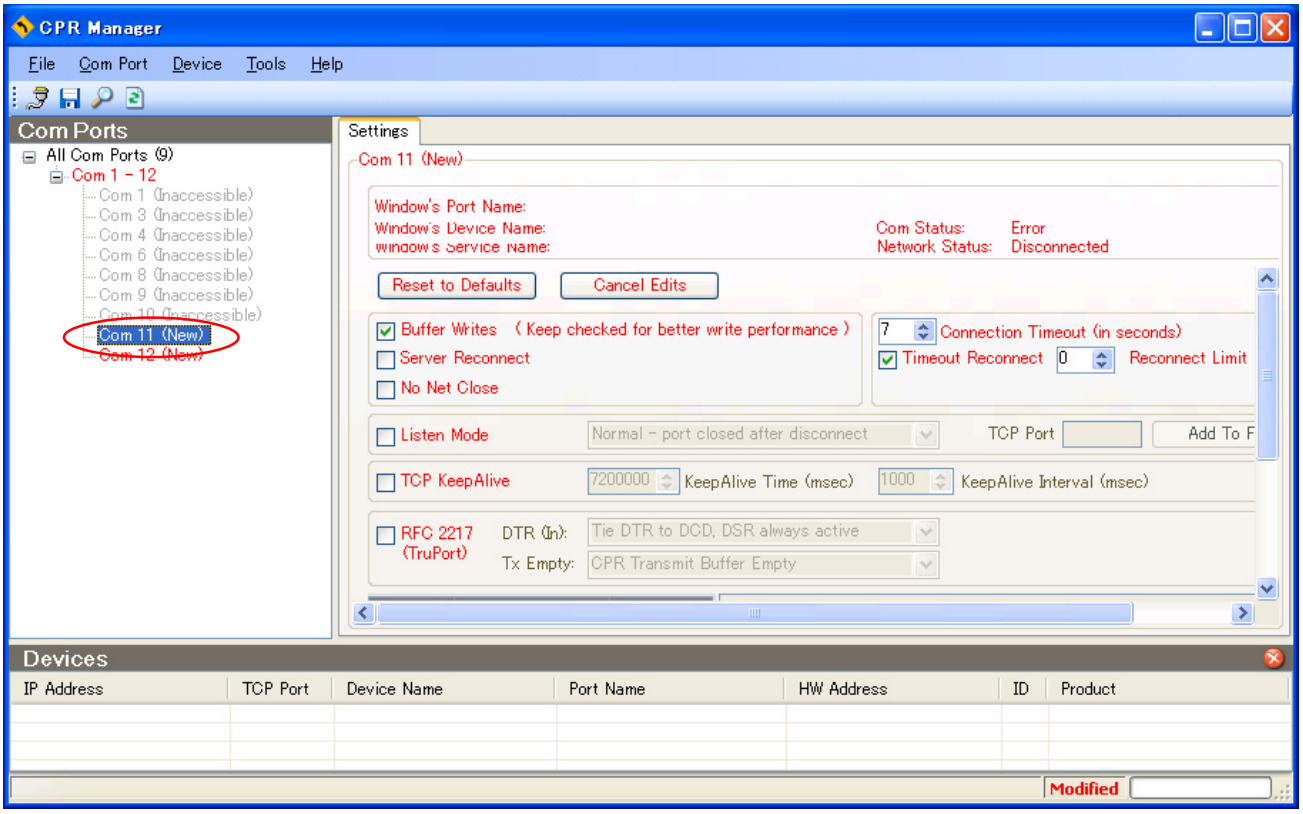
グレー表示になっているのが、既に使われているCOMポートです。
それ以外の番号から、使用したいCOMポートの番号を選択してチェックマークを付けてください。
選択は幾つでも可能です。ここで選んだCOM番号が仮想COMポート用として予約されます。
注意：COMポートの番号は256までありましが、古いプログラムではCOMポート番号が9までしか扱えない場合があります。
物理的なCOMポートが存在する場合は通常COM1に割り当てられています。さらにFAXモデムが存在するとCOM2の割り当てになります。
COM1,COM2が空きになっていても使用しない方が無難です。

選択が終わると、OKをクリックしてこのウインドウを閉じます。
例としてCOM11とCOM12を選択してOKした場合の画面が次ページです。

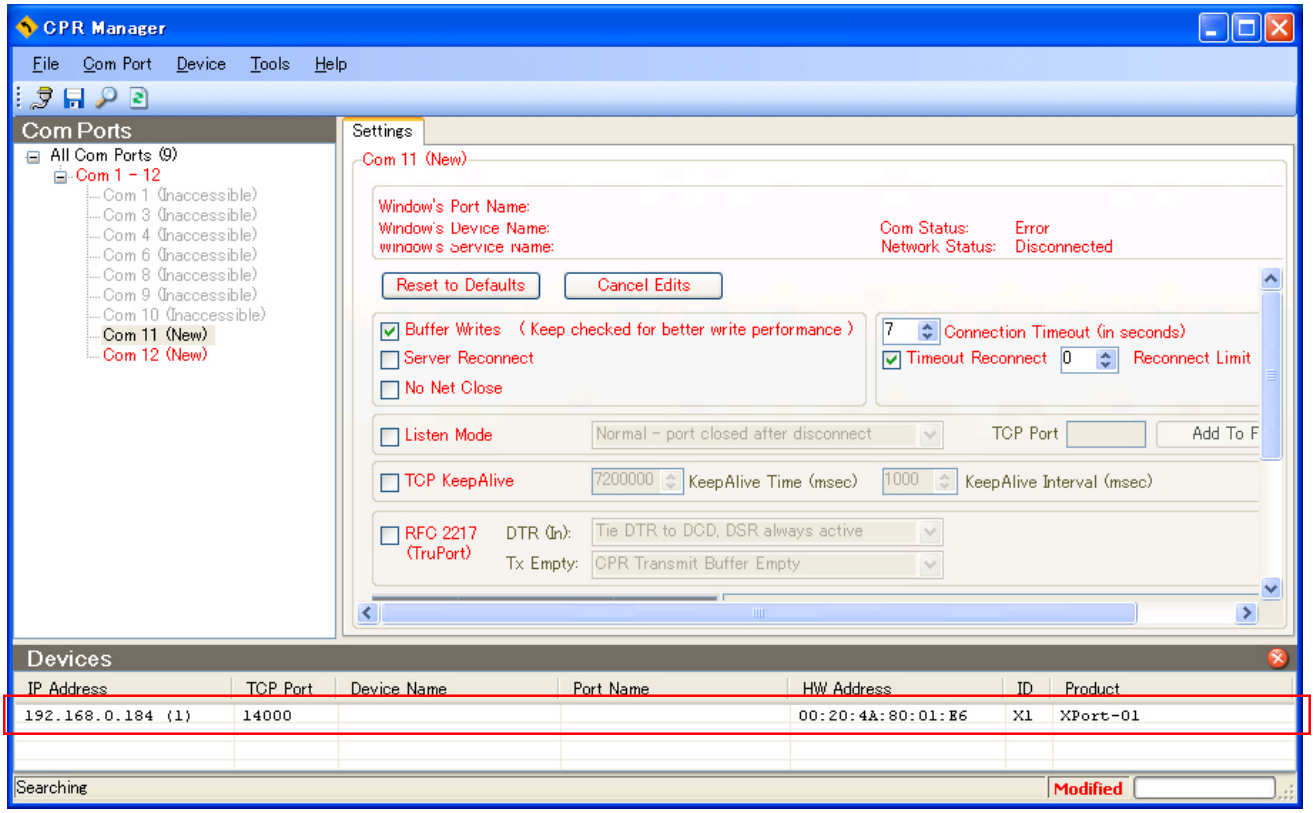
今まで無かったCOM11とCOM12がリストに追加されています。



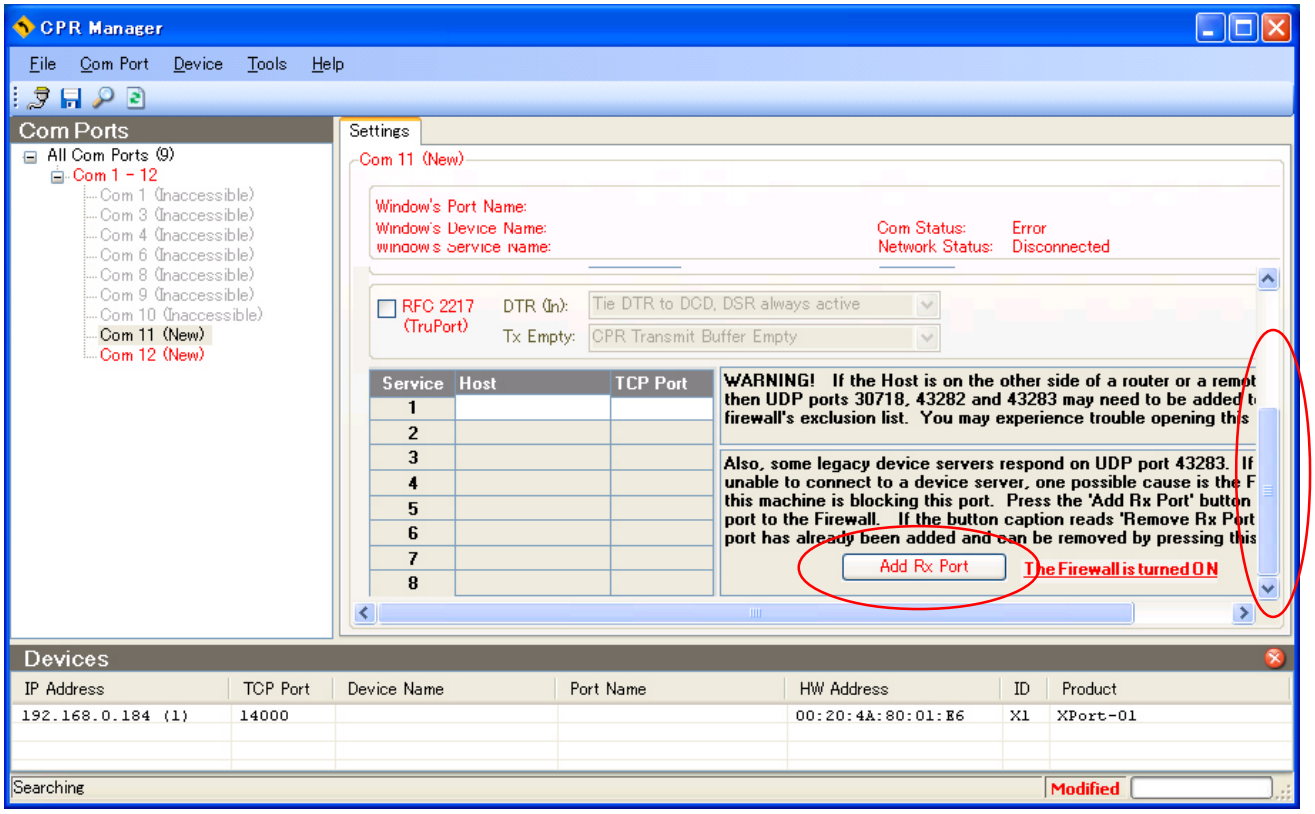
左側のリストから使用したいCOM番号をマウスでクリックします。
右側の表示がsettingに変化します。
下の例ではCOM11をクリックしたところです。



Deviceメニューから Serchを選択(又はメガネマークのアイコンをクリック）してください。
接続しているXport（RBIO-3E)が下のDevicesに表示されます。

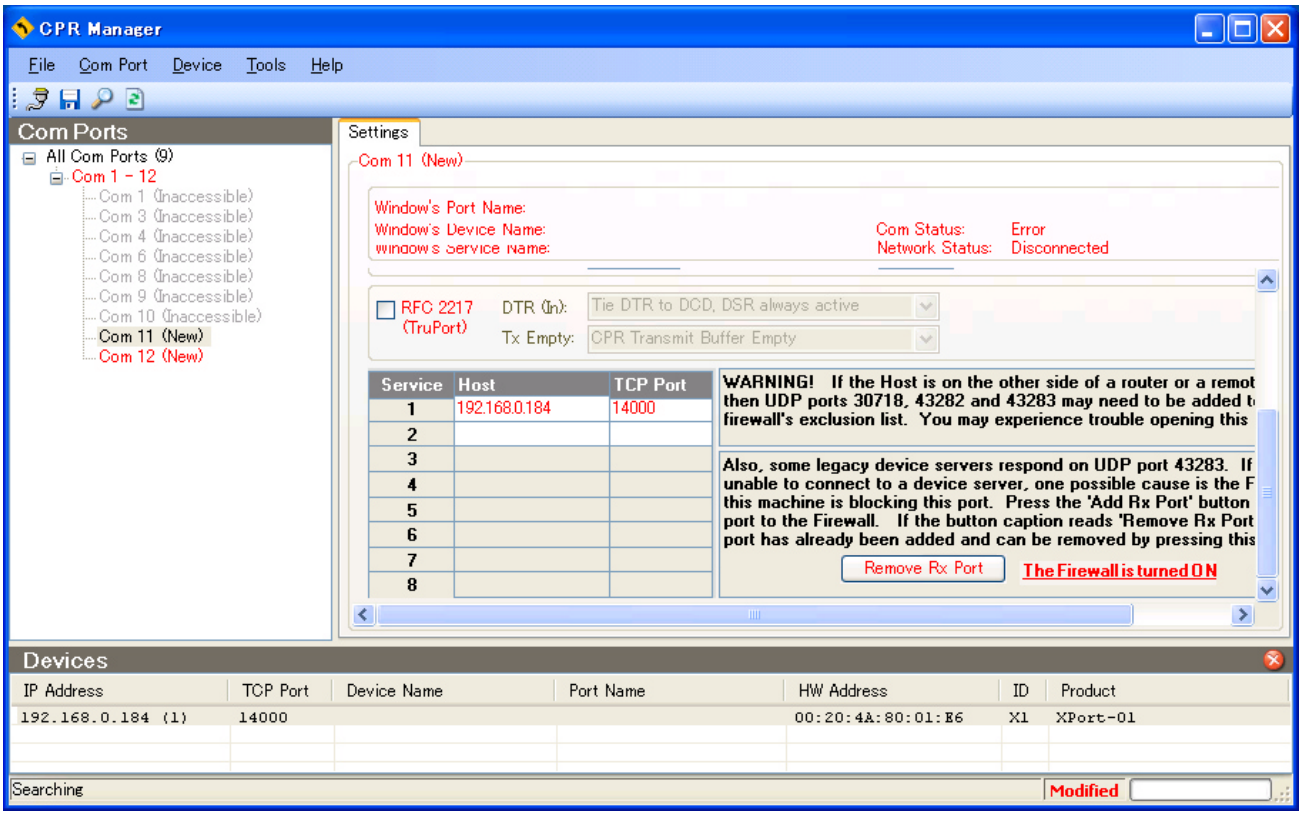


何も表示されなかったり、表示個数がおかしい場合は、ファイヤーウオールが通信を遮断している可能性があります。
Settings画面の上下スライドバーで下の方の画面を表示させるとAdd Rx Portボタンがありますのでクリックしてください。



ファイヤーウオールの通過確認の後、開放が成功した旨表示されます。
その後、再度Deviceメニューから Serchを選択(又はメガネマークのアイコンをクリック）してください。

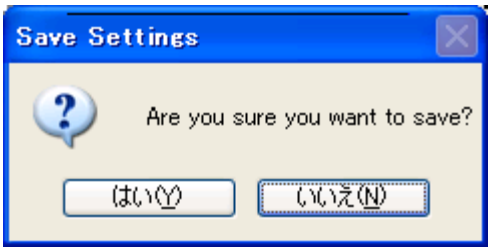
DevicesウンドウにXportが表示されましたら、接続したいXportの表示をダブルクリックするとHost名に指定したXportのIP番号が、TCP Portにポート番号が挿入されます。
もし、ポート番号が14000（デフォルトから変更していない場合）になっていない場合は手動で入力してください。



それ以外の項目は、デフォルトのままで問題ありません。

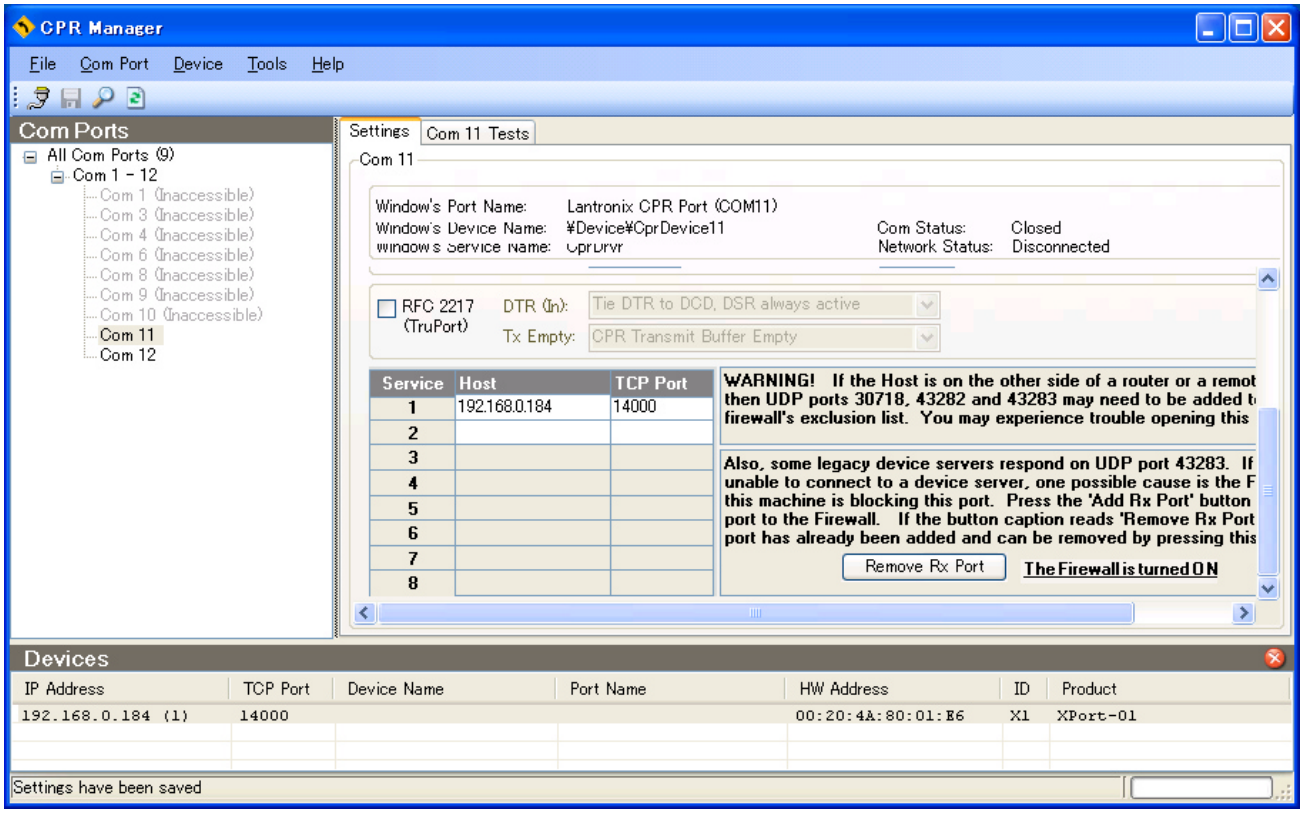
Com Portメニュー⇒Save Settingsを選択して、設定を保存してください。

右の表示に対してはいを選択すると保存されます。



ハードウエア互換性の検証に対する警告が出た場合は、「インストールします」、または「続行」を押して、インストールを進めてください。
（指定したCOMポートの個数分、表示される場合があります）

ComP orts及び右側のHost、TCP Portの表示が赤から黒になれば、設定完了です。



File⇒Exitでプログラムを終了させてください。
再起動させないと有効にならない旨の表示が出た場合は、windowsを再起動させてください。
（再起動の指示が出ない場合でも、COMポートを新たに作成または削除を行った場合は、再起動する事をお勧めします。
一度作成したCOMポートの設定内容を編集する場合は、基本的に再起動の必要はありません）

完了後、コントロールパネルからデバイスマネージャを表示させると、ポート(COMとLPT)にLantoronix CPR Port(COMxx)と表示されていれば設定完了です（xxは追加した仮想COMの番号）

以後、このCOM番号をOPENすると、指定のXport（RBIO-3E)と接続する様になります。

＊情報
本CDのLANTONIX_03フォルダに収録されている98SE～XP用のコムポートリダイレクタ「Redirector_V2.2_2」の場合は、仮想COMポートをOPENするまで、指定のCOMポートが存在せず、接続を開始した時点でシステム上に出現します（USBデバイスと同じ様な手法）このため、接続前にデバイスマネージャを表示させても、ポート(COMとLPT)には指定したCOM番号はありません。一方、今回のバージョンでは、固定的に指定したCOMポートがデバイスとして登録されている形になっています（接続開始から実際に使用できるまでのレスポンスが向上しています）

本製品のお問い合わせは
〒556-0004　大阪市浪速区日本橋西２－５－１
共立電子産業株式会社、ケイシーズ担当までお願いします
TEL (06)6644-0021
FAX (06)6644-0824
Email:keiseeds@kyohritsu.com

Copyright 1999～2008 (C) 共立電子産業株式会社